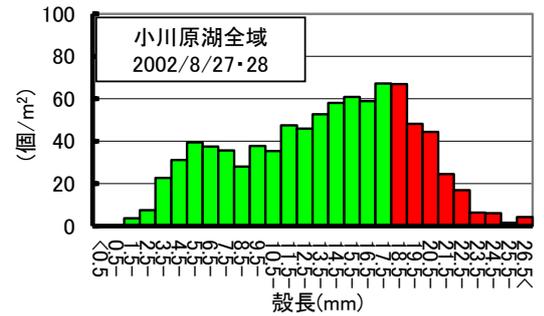


ヤマトシジミの現存量調査③ 2002年の結果

小川原湖の結果

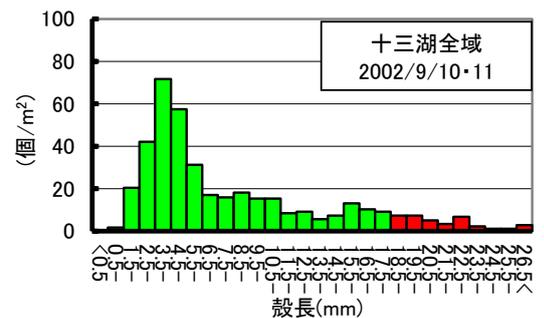
2002年のヤマトシジミ現存量調査の結果、小川原湖のシジミ現存量は約30,130トンと推定されました。これは、2002年の小川原湖の年間漁獲量3,049トン\*の10倍にあたります。このうち殻長18.5mm以上の漁獲サイズは16,190トン、漁獲サイズ未満のシジミは13,940トンと推定されました。また、殻長サイズ別に多いか少ないかを表した、湖全体の殻長別生息密度(右図)から、最も多く存在するサイズは殻長17.5mm~19.4mmでそれ以上のサイズは急激に減少していることや、漁獲サイズ前後のシジミに比べて小型のシジミ、特に3.4mm以下の稚貝が少ない傾向が確認できました。サンプリングでは目合が1mmのフルイを使用しているため、殻長1.5mm以上のシジミは残るはずですが1.5~3.4mmの小さなシジミはほとんどみつかりませんでした。



2002年小川原湖の殻長別平均生息密度  
漁獲サイズは赤色、漁獲サイズ未満は黄緑

十三湖の結果

一方で十三湖のシジミ現存量は約4,840トン、このうち殻長18.5mm以上の漁獲サイズは2,690トン、漁獲サイズ未満のシジミは2,150トンと推定されました。2002年の十三湖の年間漁獲量は2,670トンでした。また、殻長別生息密度では、小川原湖に比べて2.5~6.4mmの小型のシジミが多く、6.5mm以上の中型~大型の貝が少ない傾向がみられました。



2002年十三湖の殻長別平均生息密度

一年目の結果から

2002年の現存量調査の結果からは、基本的に上記のようなサンプルを測定、集計した結果を述べるにとどまりましたが、同時に多くの疑問が生まれました。

小川原湖の疑問

- ① 小川原湖の3万トンの資源量は、多いのか少ないのか?
- ② 資源量3万トンに対して年間3,000トンを超える漁獲は適切なのか?
- ③ 殻長組成では稚貝が極端に少ないが、正常な状態なのか?
- ④ なぜ稚貝が少ないのか?

十三湖の疑問

- ① 十三湖の4,840トンの資源量は、多いのか少ないのか?
- ② 資源量4,840トンに対して2,670トンの漁獲量は適切なのか? 可能なのか?
- ③ そもそも調査結果は資源を反映したものなのか? 調査手法に問題があったのではないのか?
- ④ 2.5~6.4mmの小型のシジミが多く、6.5mm以上の中型~大型の貝が少ない理由は?

これらの疑問は、継続した現存量調査や、天然発生、成長、生息環境の調査などを続けることである程度解かってきたものもありますが、未だに解からないものもあります。次から調査を続けていくことで見えてきたことについて述べていきます。